

総額約10億円以上の研究開発の評価(案)
(総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価)

平成14年11月11日
総合科学技術会議

「総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価について」(総合科学技術会議決定 平成14年4月23日)に基づき、評価専門調査会において検討・作成された「府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討」(別添)を踏まえ、平成13年9月から平成14年8月までに府省で評価が実施された総額10億円以上の研究開発164課題について検討した。

評価方法及び結果は概ね適切であったが、別添別表のとおり、2課題で今回の評価方法についての改善点が、53課題で今後の評価方法や研究開発の推進についての留意事項が認められた。これらの改善点・留意事項については、今後、評価専門調査会において、府省の対応を調査・確認することとする。

また、今回の評価を通していくつかの課題が認められたことから、これらについて以下の対応を行うこととする。

1. 評価報告書は評価結果だけを示したものが多かったが、評価には国民への説明責任を果たし、広く国民の理解と支持を求める意義もあることから、研究開発内容や評価方法等を記載した報告書の作成が必要と考えられる。
このため、府省の評価報告書の在り方について、評価専門調査会で調査・検討を行うこととする。
2. 概算要求に先立つ府省の事前評価は、その大部分が自己評価であり、この時点では、大枠しか定まっていない計画に基づき評価が実施されていたが、これらの事前評価は資源配分等の意思

決定における重要な判断材料であり、その内容の充実が必要と考えられる。

このため、概算要求に先立つ府省の事前評価の在り方について、評価専門調査会で調査・検討を行うこととする。

3. 今回の評価は、国家的に重要な研究開発について、府省で実施された評価方法及び結果を調査・検討することを通じて、総合科学技術会議として評価を行ったものである。本評価方法により、評価の重複を避けつつ、多数の研究開発を評価することができたものの、府省で実施された評価を用いる間接的な手法の問題点も認められた。

これらの経験を踏まえ、今後の総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価方法の在り方について、評価専門調査会で改めて検討することとする。

平成14年度 国家的に重要な研究開発の評価 府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討

平成14年10月22日
評価専門調査会

「総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価について」(総合科学技術会議決定 平成14年4月23日)では、「研究開発期間における設備整備費及び運用費等の総額が約10億円以上の研究開発」を対象に、「府省で実施された評価方法及び結果を評価専門調査会において調査・検討し、総合科学技術会議が評価を行う」こととされている。

本決定に基づき、平成14年度の総合科学技術会議が行う国家的に重要な研究開発の評価の一環として、府省で実施された評価方法及び結果を調査・検討し、以下の結果を得た。

1. 調査・検討の対象

総額10億円以上で、平成13年9月から平成14年8月に府省で事前・中間・事後評価が実施された研究開発164課題(別表)。

- 〔・平成14年度以前に開始の継続課題:78課題
- ・平成15年度に開始予定の新規課題:86課題

2. 調査・検討の方法

- ① 府省で実施された評価の報告書等に基づき、研究開発内容と評価の概要を示した評価概要票を作成した。
- ② 評価専門調査会の議員・委員が分野別に1課題2～3名で分担し、評価概要票と評価の報告書等に基づき調査・検討を行い、分野別に指名された責任議員が最終的に取りまとめた。
- ③ 評価方法や結果に大きな問題が認められ、総合科学技術会議が自ら評価を実施する必要性を検討した。
- ④ さらに、「改善点あり」、「留意事項あり」、「適切」に総合判定し、「改善点あり」、「留意事項あり」はコメントを付した。なお、議員・委員の質問事項について、必要に応じて担当府省より説明資

料の提出を受けた。

3. 調査・検討の結果

◎ 研究開発の評価は、平成13年11月28日改定の「国の研究開発評価に関する大綱的指針」に基づき実施することとされている。今回の対象課題は、指針改定前に評価が実施されたものも含んでいるが、本指針から逸脱した評価方法は無く、また、評価結果についても大きな問題は認められず、総合科学技術会議が指定して自ら評価すべき課題は無かった。

◎ 対象の164課題のうち、今回の評価方法・結果に改善点が指摘された課題（「改善点あり」）が2課題、適切だが今後の研究推進や評価方法に留意事項が附された課題（「留意事項あり」）が53課題、適切と判断された課題（「適切」）が101課題であった。

《改善点ありのコメント例（要旨）》

- ◆ 評価者の中に研究実施機関の者が含まれている。外部評価の徹底など、評価体制の整備を図ること。
- ◆ 研究の着想について専門家の参加も得て学問的根拠に基づき評価する必要がある。

《留意事項ありのコメント例（要旨）》

- ◆ 費用の効果的な活用面での評価を更に充実すること。
- ◆ 評価が活かされるような具体的な改善点を指摘すること。
- ◆ 国際水準との比較についても十分に評価すること。
- ◆ より詳細かつ迅速な評価結果の公表を行うこと。
- ◆ 評価委員に人文・社会系の有識者等を増やすこと。
- ◆ 大学や他省庁と連携・協調した推進を図ること。

◎ 評価報告書は評価結果だけを示したものが多かったが、一部府省（経済産業省等）では、評価方法や評価結果の詳細な記述に加え、評価に供された研究内容や成果等の資料が添付さ

れており、当該評価と対象研究を理解し易い形式を使用していた。評価には国民に対する説明責任を果たし、広く国民の理解と支持を求める面もあることから、解りやすい報告書の作成が望ましいと考えられた。

- ◎ 概算要求に先立つ事前評価では、組織的に外部専門家の意見を聴取している府省（農林水産省等）もあったが、大部分は自己評価であった。また、この時点では、計画についても大枠しか定まっておらず、具体的な実施計画に基づく評価は極めて少ない状況であった。事前評価として、概算要求前の自己評価に加え、概算要求後に外部評価を行っている府省もいくつかあったが、この中には政府予算案に反映するには遅いと考えられるものもあった。

なお、対象課題のうち新たに実施が予定される以下の大規模な研究開発については、現在、別途評価を実施中である。

- ・ 再生医療の実現化プロジェクト（文部科学省）
- ・ 準天頂衛星システム（総務省・文部科学省・経済産業省・国土交通省）
- ・ イネゲノム機能解析研究（農林水産省）

4. 今後の対応

- ◎ 今回の評価方法・結果に改善点が指摘された課題（「改善点あり」）については、府省に早急な対応を求め、2～3ヶ月後を目途に評価専門調査会で府省から直接報告を受け、その対応状況を確認する。今後の研究推進や評価について留意事項が附された課題（「留意事項あり」）については、府省の対応状況や対応方針について、評価専門調査会で府省から書面で報告を受け、その対応状況を確認する。
- ◎ 概算要求前の事前評価については、この結果に基づいて各府省における予算概算要求の意思決定が行われることや、この結果に基づく今回のような調査検討を総合科学技術会議にお

ける次年度概算要求の精査にも活用することから、その内容の充実を図る必要があると考えられる。このため、今後、概算要求前の評価の在り方について、評価専門調査会で検討する。

評価専門調査会名簿

会長	桑原 洋	総合科学技術会議議員
	石井 紫郎	同
	井村 裕夫	同
	黒田 玲子	同
	白川 英樹	同
	松本 和子	同
	吉川 弘之	同

(専門委員)

石田 瑞穂	防災科学技術研究所研究主監
江崎玲於奈	芝浦工業大学学長
大島美恵子	東北公益文科大学副学長
加藤 伸一	トヨタ自動車株式会社取締役相談役
国武 豊喜	北九州市立大学副学長
末松 安晴	国立情報学研究所長
鈴木 昭憲	秋田県立大学学長
谷口 維紹	東京大学大学院医学系研究科教授
寺田 雅昭	(財)先端医療振興財団副理事長
鳥井 弘之	日本経済新聞社論説委員
鳥居 泰彦	慶應義塾学事顧問
西室 泰三	株式会社東芝取締役会長
藤野 政彦	武田薬品工業株式会社取締役会長
増本 健	(財)電気磁気材料研究所長

調査・検討の対象及び結果の集計

1. 調査・検討の対象

	継続課題	新規課題	合 計	
ライフサイエンス	15	23	38	23.2%
情報通信	21	16	37	22.6%
環境	10	13	23	14.0%
ナノテク・材料	4	14	18	11.0%
エネルギー	14	0	14	8.5%
製造技術	3	2	5	3.0%
社会基盤	1	12	13	7.9%
フロンティア	6	4	10	6.1%
その他	4	2	6	3.7%
合 計	78	86	164	100%

2. 調査・検討の結果

	継続課題	新規課題	合 計	
適切	42	59	101	61.6%
留意事項あり	33	20	53	32.3%
改善点あり	2	0	2	1.2%
評価中*	1	7	8	4.9%
合 計	78	86	164	100%

* 「再生医療の実現化プロジェクト」(1課題)、「準天頂衛星システム」(5課題)、「イネゲノム機能解析研究」(継続課題と新規課題に各1課題)

府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討：継続課題

No.	府省名	研究開発課題名	分野	実施期間		事業費 平成14年度 までの実績 (百万円)	評価形態	総合判定	
				開始年 度	終了年 度(予定)			判定	コメント
1	文部科学省	スギ花粉症治療薬	ライフサイエンス	2001	2008	402	事前評価	改善点あり	各評価項目についてどのような評価を行ったか明示すると共に、本研究の着想について免疫学の専門家の参加も得て、学問的根拠に基づき評価する必要がある。
2	文部科学省	脳科学総合研究	ライフサイエンス	1997	2017	66,067	中間評価	適切	判定の詳細は第15回評価専門調査会(平成14年9月24日)・資料3を参照のこと。
3	文部科学省	ゲノム科学総合研究	ライフサイエンス	1998	2012	58,628	中間評価	適切	
4	文部科学省	発生・再生科学研究 (第I期)	ライフサイエンス	2000	2004	23,900	中間評価	留意事項あり	次回の評価では費用の効率的な使用の視点も重視すること。ただし、応用面での成果を性急に求めるのではなく、長期的な発展に留意すること。
5	文部科学省	複雑系としての生命システムの解析	ライフサイエンス	1999	2003	1,100	中間評価	留意事項あり	次回の評価では、より詳細かつ迅速な評価結果の公表を行うこと。また、技術面、設備面、人材面等において、日本の真に中核的COEになりつつあるかの視点でも評価を行うこと。
6	文部科学省	がん研究の総合的推進に関する研究	ライフサイエンス	1999	2004	3,209	中間評価	留意事項あり	次回の評価では、より詳細な評価結果の公表を行うこと。
7	文部科学省	生命システムの解明に向けた統合的ゲノム研究	ライフサイエンス	2000	2004	3,584	中間評価	留意事項あり	次回の評価では費用の効率的な使用の視点も重視すると共に、より詳細な評価結果の公表を行うこと。
8	厚生労働省	トキシコゲノミクス手法を用いた医薬品安全性評価予測システムの構築とその基盤に関する研究	ライフサイエンス	2002	2006	650	事前評価	留意事項あり	次回の評価では、迅速な評価結果の公表を行うこと。
9	農林水産省	組換え体を用いた有用遺伝子の大規模機能解明と関連技術の開発	ライフサイエンス	2002	2006	200	事前評価	評価中	H15年より組替えて新規課題化されるため、大規模新規課題として評価中。
10	農林水産省	昆虫ゲノムの解析による有用遺伝子の単離と利用技術の開発	ライフサイエンス	2002	2006	233	事前評価	留意事項あり	次回の評価では評価委員を増やして評価すること。
11	農林水産省	遺伝子組換え体の産業利用における安全性確保総合研究	ライフサイエンス	2002	2005	408	事前評価	留意事項あり	次回の評価では人文・社会系の有識者等の評価委員を増やして評価すること。
12	経済産業省	早期診断・短期回復のための高度診断・治療システムの開発	ライフサイエンス	1998	2005	6,427	テーマ毎に中間 又は事後評価	適切	
13	経済産業省	微粒子利用型生体結合物質等創成技術	ライフサイエンス	1998	2002	2,046	中間評価	留意事項あり	既に一部では企業化等の成果が得られており、今後国費での支援範囲について考え方を整理すること。
14	経済産業省	グリコクラスター制御生体分子合成技術	ライフサイエンス	1999	2003	1,647	中間評価	適切	
15	経済産業省	植物利用エネルギー使用合理化工業原料生産技術開発	ライフサイエンス	1999	2009	2,905	中間評価	適切	
16	総務省	ナチュラルビジョン(次世代映像表示・伝送システム)に 研究開発	情報通信	1998	2005	2,890	中間評価	留意事項あり	終結までに実用化の見通しをつけること。
17	総務省	次世代の周回衛星を用いた移動体衛星通信システム・ 光衛星間通信システムの基礎技術の確立	情報通信	1997	2006	5,435	事前評価 (注1)	適切	

府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討：継続課題

	府省名	研究開発課題名	分野	実施期間		事業費 平成14年度 までの実績 (百万円)	評価形態	総合判定	
				開始年 度	終了年 度(予定)			判定	コメント
18	総務省	光バーストスイッチングを用いたフォトニックネットワーク技術の研究開発	情報通信	2001	2005	646	事前評価	適切	
19	総務省	トータルデジタルネットワーク構築技術の研究開発	情報通信	1998	2004	1,174	中間評価	適切	
20	総務省	次世代超高速大規模ネットワークに関する研究開発	情報通信	1999	2004	3,047	中間評価	適切	
21	総務省	高度道路交通システム(ITS)実現のための情報通信技術の研究開発	情報通信	1999	2004	6,655	事後評価 中間評価(注2)	適切	
22	総務省	走行支援システム実現のためのスマートゲートウェイ技術の研究開発	情報通信	2000	2002	4,078	中間評価	適切	
23	総務省	電子機器から漏洩する電波の三次元可視化技術の研究開発	情報通信	2000	2004	737	中間評価	適切	
24	総務省	成層圏無線プラットフォーム研究開発プロジェクト	情報通信	1998	2004	6,620	中間評価	適切	
25	総務省	大規模コーパスベース音声対話翻訳技術の研究開発	情報通信	2001	2005	2,419	事前評価	適切	
26	総務省	自立分散型無線ネットワークの研究開発	情報通信	2001	2004	2,247	事前評価	適切	
27	総務省	人間情報コミュニケーションの研究開発	情報通信	2001	2005	3,031	事前評価	適切	
28	総務省	超高速知能ネットワーク社会に向けた新しいインタラクション・メディアの研究開発	情報通信	2001	2005	1,869	事前評価	適切	
29	総務省	ユビキタスコンピューティング環境を実現する基盤ネットワークプロトコルの研究開発	情報通信	2001	2005	2,032	事前評価	適切	
30	総務省	新世代光無線アクセスシステム技術の研究開発	情報通信	2001	2004	564	事前評価	適切	
31	経済産業省	超低損失電力素子技術開発	情報通信	1998	2002	5,849	中間評価	留意事項あり	他国との競争上勝てるかどうかにも留意すること。
32	経済産業省	極低電力情報端末用のLSIの研究開発	情報通信	1998	2002	2,010	中間評価	留意事項あり	事業終了後において本事業の成果が実用化に向け活用されるように留意すること。
33	経済産業省	超高密度電子SI技術の研究開発	情報通信	1999	2003	3,888	中間評価	適切	
34	経済産業省	電子デバイス製造プロセスで使用するエッチングガスの代替ガス・システム及びプロセス技術研究開発	情報通信	1999	2003	5,820	中間評価	適切	
35	経済産業省	次世代強誘電体メモリ	情報通信	1999	2003	1,561	中間評価	適切	
36	経済産業省	原子・分子極限操作技術	情報通信	1992	2001	26,216	事後評価	留意事項あり	成果が広い分野に適用されていくよう留意すること。

府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討：継続課題

府省名	研究開発課題名	分野	実施期間		事業費 平成14年度 までの実績 (百万円)	評価形態	総合判定	
			開始年 度	終了年 度(予定)			判定	コメント
37 農林水産省	農林水産バイオリサイクル研究	環境	2000	2006	1,553	事前評価	留意事項あり	今後の中間、事後評価では、評価者数を増やし人文・社会学者を加えること、評価結果のまとめを充実すること、効率性の観点からの評価を十分に行う必要がある。
38 農林水産省	地球温暖化が農業水産業に与える影響の評価及び対策技術の開発	環境	2001	2006	566	事前評価	留意事項あり	今後の中間、事後評価では、評価者数を増やし人文・社会学者を加えること、評価結果のまとめを充実すること、効率性の観点からの評価を十分に行う必要がある。また、府省間の連携に留意すること。
39 農林水産省	流域圏における水循環・農林水産生態系の自然共生型管理技術の開発	環境	2002	2006	300	事前評価	留意事項あり	今後の中間、事後評価では、評価者数を増やし人文・社会学者を加えること、評価結果のまとめを充実すること、効率性の観点からの評価を十分に行う必要がある。また、府省間の連携に留意すること。
40 経済産業省	SF6等代替ガス利用電子デバイス製造クリーニングプロセスシステムの研究開発	環境	1998	2002	2,501	中間評価	適切	
41 経済産業省	省エネルギー型金属ダスト回生技術開発	環境	1998	2002	1,544	中間評価	留意事項あり	課題終了後において、実用化の観点から評価すること。
42 経済産業省	プログラム方式二酸化炭素固定化・有効利用技術開発	環境	1999	2006	1,034	中間評価	留意事項あり	今後は、改善策をより具体的に提示することが望ましい。
43 経済産業省	二酸化炭素の地中貯留技術研究開発	環境	2000	2004	2,129	中間評価	適切	
44 経済産業省	石炭・天然ガス活用型二酸化炭素回収・利用技術の開発	環境	2000	2004	1,150	中間評価	留意事項あり	今後は、改善策をより具体的に提示することが望ましい。
45 経済産業省	エネルギー使用合理化古紙等有効利用二酸化炭素固定化技術開発	環境	2000	2004	876	中間評価	留意事項あり	研究成果の面ばかりでなく、古紙利用について社会的視点から評価する必要がある。課題終了後において、実用化の観点から評価すること。
46 環境省	21世紀の炭素管理に向けたアジア陸域生態系の統合的炭素収支研究	環境	2002	2006	384	事前評価	留意事項あり	各評価者の評価意見がまとめられていないため、どの評価結果を基に採択が決定したのかが不明である。次回の評価では、各評価者からの意見を取りまとめる必要がある。その際、効率性等の観点からの評価を重視して実施すべきである。
47 厚生労働省	ナノレベルイメージングによる分子の機能および構造解析	ナノテック・材料	2002	2006	200	事前評価	留意事項あり	次回の評価では、評価目的を明確にし、国際水準との比較についても十分に評価すること。
48 経済産業省	シナジーセラミックスの技術開発	ナノテック・材料	1994	2003	10,056	中間評価	適切	
49 経済産業省	炭素系高機能材料技術(フロンティアカーボンテクノロジー)	ナノテック・材料	1998	2002	6,624	中間評価	適切	
50 経済産業省	知的材料・構造システム	ナノテック・材料	1998	2002	3,858	中間評価	適切	
51 文部科学省	FBRサイクル開発戦略調査研究	エネルギー	2000	2015	10,392	中間評価	留意事項あり	本研究を進める上で、費用の効率的な使用面での評価を更に充実すべきである。
52 文部科学省	環境保全技術開発	エネルギー	1974		33,035	中間評価	適切	
53 文部科学省	ウラン濃縮技術開発	エネルギー	1973	2001	225,640	事後評価	留意事項あり	研究開発費用が高額であったことを踏まえ、今後の原子力開発では費用の効率的な使用に更に留意すべき。
54 文部科学省	海外ウラン探鉱	エネルギー	1967	2002	74,740	事後評価	留意事項あり	今後は評価結果が活かされるよう具体的な改善点を指摘すべきである。

府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討：継続課題

	府省名	研究開発課題名	分野	実施期間		事業費 平成14年度 までの実績 (百万円)	評価形態	総合判定	
				開始年 度	終了年 度(予定)			判定	コメント
55	経済産業省	石油プラント高度情報化システム技術開発	エネルギー	1999	2003	2,429	中間評価	適切	
56	経済産業省	産業用コージェネレーション実用技術開発	エネルギー	1999	2003	1,729	中間評価	適切	
57	経済産業省	高温空気燃焼対応高度燃焼制御技術開発	エネルギー	1999	2003	3,670	中間評価	留意事項あり	今後は要素技術のより定量的な評価を行うべきである。
58	経済産業省	軽油硫黄分低減化技術等の開発事業	エネルギー	1999	2003	3,780	中間評価	適切	
59	経済産業省	革新的軽量構造設計製造基盤技術開発	エネルギー	1999	2003	1,468	中間評価	留意事項あり	次回の評価では、航空行政、航空産業の有識者を評価者に加えることが望ましい。
60	経済産業省	石油産業高度化のための技術の開発・調査事業/a)石油 産業高度化技術開発事業	エネルギー	1998	2002	23,567	テーマ毎に中間 又は事後評価	適切	
61	経済産業省	超電導応用基盤技術研究開発	エネルギー	1998	2002	10,583	中間評価	適切	
62	経済産業省	低消費電力超音速信号処理技術開発	エネルギー	1998	2002	3,649	中間評価	適切	
63	経済産業省	燃料電池発電技術開発	エネルギー	2000	2004	8,396	中間評価	適切	
64	経済産業省	超電導電力貯蔵システム技術開発	エネルギー	1999	2003	3,272	中間評価	適切	
65	文部科学省	デカボランイオンビーム発生装置	製造技術	2001	2004	212	事前評価	留意事項あり	技術動向や競合動向に十分に留意して推進すること。
66	経済産業省	人間行動解析システム技術開発	製造技術	1999	2003	2,108	中間評価	留意事項あり	民間との分担、費用の効率的な使用を十分に考慮して推進すること。
67	経済産業省	人間協調・共存型ロボット開発	製造技術	1998	2002	4,470	中間評価	適切	
68	文部科学省	複合環境下における破壊の物理科学と制御システム	社会基盤	1999	2003	1,273	中間評価	留意事項あり	成果の社会還元留意しながら推進すること。次回の評価では、より詳細かつ迅速な評価結果の公表を行うこと。また、技術面、設備面、人材面等において、日本の真に中核的COEになりつつあるかの視点でも評価を行うこと。
69	文部科学省	H-IIAロケット	フロンティア	1995	2005	136,834	事後評価 (試験機の評価)	留意事項あり	今後のH-IIAの評価においては、信頼性確保技術の確立と費用対効果の評価を十分行うこと。
70	文部科学省	技術試験衛星VIII型	フロンティア	1995	2004	39,460	中間評価	適切	
71	文部科学省	超高速インターネット衛星	フロンティア	2001	2005	13,072	事前評価	適切	
72	文部科学省	北極海域における海洋観測技術の開発及び観測研究	フロンティア	1991		2,758	中間評価	適切	
73	文部科学省	極限環境生物フロンティア研究費	フロンティア	2001	2020	1,726	中間評価	適切	

府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討：継続課題

	府省名	研究開発課題名	分野	実施期間		事業費 平成14年度 までの実績 (百万円)	評価形態	総合判定	
				開始年 度	終了年 度(予定)			判定	コメント
74	文部科学省	超高エネルギー断面から見た宇宙	フロンティア	1999	2003	1,135	中間評価	留意事項あり	次回の評価では、より詳細かつ迅速な評価結果の公表を行うこと。また、技術面、設備面、人材面等において、日本の真に中核的COEになりつつあるかの視点でも評価を行うこと。
75	文部科学省	米国ブルックヘブン国立研究所との国際研究協力	その他	1995	2006	6,980	中間評価	留意事項あり	来年度の評価では、国際協力、効率性の観点からの評価を十分行うこと。
76	文部科学省	Bファクトリー計画	その他	1994		73,960	中間評価	改善点あり	評価者の中に研究実施機関の者が含まれている。外部評価の徹底など、評価体制の整備を図ること。
77	農林水産省	食料自給率向上のための21世紀の土地利用型農業確立に関する総合研究	その他	2002	2005	1,806	事前評価	留意事項あり	今後の中間評価、事後評価では、効率性の観点から十分評価することが必要である。
78	経済産業省	環境適合型次世代超音速推進システム技術研究開発	その他	1999	2003	9,111	中間評価	適切	

注1 当該研究開発においては、研究開発を2段階(フェーズⅠ、フェーズⅡ)に分けており、事前評価は第2段階(フェーズⅡ)開始の評価を実施したということである。

注2 当該研究開発においては、平成11年～平成13年、平成13年～平成16年の2段階に分けて研究開発を実施しており、2002年5月にそれぞれ事後評価と中間評価を実施した。

府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討：新規課題

府省名	研究開発課題名	分野	実施期間		事業費 H15年度 概算要求額 (百万円)	評価形態	総合判定	
			開始年 度	終了年 度(予 定)			判定	コメント
1 文部科学省	光技術を融合した生体機能計測技術の研究開発	ライフサイエンス	2003	2007	2,000	事前評価	適切	
2 文部科学省	再生医療の実現化プロジェクト	ライフサイエンス	2003	2017	4,509	事前評価	評価中	大規模新規課題として評価中。
3 文部科学省	細胞・生体機能シミュレーションプロジェクト	ライフサイエンス	2003	2007	3,768	事前評価	適切	
4 文部科学省	生命分子(タンパク質・糖等)生産プロジェクト	ライフサイエンス	2003	2007	4,509	事前評価	留意事項あり	研究開始時までに利用度が高いタンパク質等を厳選して進めること。
5 文部科学省	テーラーメイド医療実現化プロジェクト	ライフサイエンス	2003	2007	8,113	事前評価	適切	
6 厚生労働省	疾患関連たんぱく質解析プロジェクト	ライフサイエンス	2003	2007	4,000	事前評価	適切	
7 厚生労働省	身体機能解析・補助・代替のための機器開発プロジェクト	ライフサイエンス	2003	2007	3,000	事前評価	適切	
8 厚生労働省	治験活性化プロジェクト	ライフサイエンス	2003	2007	3,500	事前評価	適切	
9 厚生労働省	食品安全確保研究	ライフサイエンス	2003	2007	1,500	事前評価	適切	
10 農林水産省	遺伝子組換え体の産業利用における安全性確保総合研究	ライフサイエンス	2002	2005	739	事前評価	適切	
11 農林水産省	食品の安全性及び機能性に関する総合研究	ライフサイエンス	2001	2006	2,965	事前評価	留意事項あり	次回の評価では、研究費と期待される成果の関係等の効率性の観点を重視すること。
12 農林水産省	イネゲノムの機能解析研究	ライフサイエンス	2003	2007	10,268	事前評価	評価中	大規模新規課題として評価中。
13 農林水産省	畜産ゲノム研究の加速化	ライフサイエンス	2002	2006	463	事前評価	留意事項あり	必要に応じて脂肪以外のcDNAについても検討すること。
14 農林水産省	農業用・衛生害虫用「ゲノム創薬」の開発	ライフサイエンス	2003	2006	1,707	事前評価	適切	
15 農林水産省	ゲノム情報を活用した有用物質生産工程の高度化	ライフサイエンス	2002	2006	1,184	事前評価	適切	
16 経済産業省	バイオ・IT融合機器開発プロジェクト	ライフサイエンス	2003	2005	4,000	事前評価	適切	
17 経済産業省	ナノカプセル型人工酵素運搬体製造プロジェクト	ライフサイエンス	2003	2005	900	事前評価	留意事項あり	実用化に向けて、厚生労働省との連携や安全性確保も含め、研究の進め方をさらに検討する必要がある。
18 経済産業省	先進ナノバイオデバイスプロジェクト	ライフサイエンス	2003	2005	900	事前評価	留意事項あり	将来の実用化に向けて、民間企業の意向も十分に取り入れて推進すること。
19 経済産業省	ナノ微粒子利用スクリーニングプロジェクト	ライフサイエンス	2003	2005	900	事前評価	留意事項あり	既に一部では企業化等の成果が得られており、今後国費での支援範囲について考え方を整理すること。
20 経済産業省	タンパク質機能解析・活用プロジェクト	ライフサイエンス	2003	2005	4,500	事前評価	適切	

府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討：新規課題

	府省名	研究開発課題名	分野	実施期間		事業費 H15年度 概算要求額 (百万円)	評価形態	総合判定	
				開始年 度	終了年 度(予 定)			判定	コメント
21	経済産業省	糖鎖エンジニアリングプロジェクト	ライフサイエンス	2003	2005	3,000	事前評価	適切	
22	経済産業省	微細加工技術利用細胞組織製造プロジェクト	ライフサイエンス	2003	2005	1,100	事前評価	適切	
23	経済産業省	タンパク質相互作用解析ナノバイオチッププロジェクト	ライフサイエンス	2003	2005	700	事前評価	適切	
24	総務省	ネットワークヒューマンインターフェース技術の総合的な研究開発	情報通信	2003	2005	700	事前評価	適切	
25	総務省	ユビキタスネットワーク(何でもどこでもネットワーク)技術の研究開発	情報通信	2003	2007	2,500	事前評価	適切	
26	総務省	タイムスタンププラットフォーム技術の研究開発	情報通信	2003	2005	350	事前評価	適切	
27	総務省	準天頂衛星システムの研究開発	情報通信	2003	2011	2,650	事前評価	評価中	大規模新規課題として評価中。
28	総務省	アジア・ブロードバンド衛星基盤技術の研究開発	情報通信	2003	2005	600	事前評価	適切	
29	総務省	先進的IT基盤システム開発	情報通信	2003	2007	500	事前評価	適切	
30	文部科学省	e-Society基盤ソフトウェアの総合開発	情報通信	2003	2007	4,000	事前評価	適切	
31	文部科学省	ナショナル・リサーチグリッド・イニシアティブ	情報通信	2003	2007	6,000	事前評価	適切	
32	経済産業省	MEMSプロジェクト	情報通信	2003	2005	2,150	事前評価	留意事項あり	開発とともに実用化が大切であり、製造Hub的機構の整備など実展開とのドッキングを検討して推進すること。
33	経済産業省	デジタル情報機器相互運用基盤プロジェクト	情報通信	2003	2005	2,500	事前評価	適切	
34	経済産業省	準天頂衛星システム基盤プロジェクト	情報通信	2003	2007	1,900	事前評価	評価中	大規模新規課題として評価中。
35	経済産業省	半導体アプリケーションチッププロジェクト	情報通信	2003	2005	4,000	事前評価	適切	
36	経済産業省	極端紫外線(EUV)露光システムプロジェクト	情報通信	2003	2005	2,690	事前評価	適切	
37	経済産業省	最先端システムLSI設計プロジェクト	情報通信	2003	2005	800	事前評価	適切	
38	経済産業省	ビジネスグリッドコンピューティングプロジェクト	情報通信	2003	2005	5,000	事前評価	適切	
39	国土交通省	ロボット等によるIT施工システムの開発	情報通信	2003	2007	526	事前評価	適切	
40	文部科学省	一般・産業廃棄物・バイオマスの複合処理・再資源化プロジェクト	環境	2003	2007	2,000	事前評価	留意事項あり	他省庁の類似プロジェクトについての研究及び研究者の相互の交流を図るなど、効率性を上げて推進すること。

府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討：新規課題

府省名	研究開発課題名	分野	実施期間		事業費 H15年度 概算要求額 (百万円)	評価形態	総合判定	
			開始年度	終了年度(予定)			判定	コメント
41 文部科学省	都市型水循環インフラからの有用資源回収プロジェクト	環境	2003	2007	800	事前評価	留意事項あり	他省庁の類似プロジェクトについての研究及び研究者の相互の交流を図るなど、効率性を上げて推進すること。
42 農林水産省	地球温暖化が農林水産業に与える影響の評価及び対策技術の開発	環境	2001	2006	799	事前評価	留意事項あり	今回の評価では、効率性の観点からの評価が十分行われるべきである。
43 農林水産省	農林水産生態系における有害化学物質の総合管理技術の開発	環境	2003	2007	1,400	事前評価	留意事項あり	今回の評価では、効率性の観点からの評価が十分行われるべきである。厚生労働省・環境省等所管の研究機関との連携に留意して推進すること。
44 農林水産省	地球規模水循環変動が食料生産に及ぼす影響の評価と対策シナリオの策定	環境	2003	2007	276	事前評価	適切	
45 経済産業省	カーボンナノファイバー複合材料プロジェクト	環境	2003	2005	400	事前評価	適切	
46 経済産業省	カーボンナノチューブFED(フィールドエミッションディスプレイ)プロジェクト	環境	2003	2005	1,000	事前評価	適切	
47 経済産業省	高分子有機EL発光材料プロジェクト	環境	2003	2005	500	事前評価	適切	
48 経済産業省	省エネ型次世代PDPプロジェクト	環境	2003	2005	1,000	事前評価	適切	
49 経済産業省	光触媒利用高機能住宅用部材プロジェクト	環境	2003	2005	500	事前評価	適切	
50 経済産業省	インクジェット法による回路基盤製造プロジェクト	環境	2003	2005	500	事前評価	適切	
51 経済産業省	ディスプレイ用高強度ナノガラスプロジェクト	環境	2003	2005	300	事前評価	適切	
52 国土交通省	都市臨海部に干潟を取り戻すプロジェクト	環境	2003	2007	760	事前評価	留意事項あり	本課題には、「市民参加による順応性の管理手法の実践」があるため、今回の評価では、社会科学的な観点も含めた評価が求められる。
53 文部科学省	次世代型燃料電池プロジェクト	ナノテック・材料	2003	2007	1,000	事前評価	適切	
54 文部科学省	エネルギー起源CO2削減のための超耐熱材料イニシアティブ	ナノテック・材料	2003	2010	2,600	事前評価	留意事項あり	今後の評価では、成果の実現可能性を十分に検討すること。
55 文部科学省	次世代の科学技術をリードする計測・分析・評価機器の開発	ナノテック・材料	2003	2007	2,000	事前評価	留意事項あり	強力な研究代表者(リーダー)の下に、明確な計画を立てて推進すること。また、研究費の効率的な使い方について十分検討すること。
56 文部科学省	ナノテクノロジーを活用した新しい原理のデバイス開発	ナノテック・材料	2003	2007	2,000	事前評価	適切	
57 文部科学省	ナノテクノロジーを活用した人工臓器・人工感覚器の開発	ナノテック・材料	2003	2007	2,000	事前評価	留意事項あり	研究分野が理—工—医にわたる広領域であるため、基本となる目標と計画を明確にして推進すること。
58 文部科学省	量子情報処理プロジェクト	ナノテック・材料	2003	2010	1,000	事前評価	適切	

府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討：新規課題

府省名	研究開発課題名	分野	実施期間		事業費 H15年度 概算要求額 (百万円)	評価形態	総合判定	
			開始年度	終了年度(予定)			判定	コメント
59 文部科学省	極端紫外(EUV)光源開発等の先進半導体製造技術の実用化	ナノテック・材料	2003	2007	3,000	事前評価	適切	
60 農林水産省	生物機能の革新的利用のためのナノテクノロジー・材料技術の開発	ナノテック・材料	2002	2007	795	事前評価	留意事項あり	この分野は極めて広範な領域であるため、大学や他省庁と連携・協調した推進を図ること。
61 経済産業省	次世代半導体ナノ材料高度評価プロジェクト	ナノテック・材料	2003	2005	2,200	事前評価	適切	
62 経済産業省	ダイヤモンド極限機能プロジェクト	ナノテック・材料	2003	2005	1,000	事前評価	適切	
63 経済産業省	マイクロ分析・生産システムプロジェクト	ナノテック・材料	2003	2005	1,300	事前評価	適切	
64 経済産業省	機能性カプセル活用フルカラーリライタブルペーパープロジェクト	ナノテック・材料	2003	2005	600	事前評価	適切	
65 経済産業省	ナノカーボン応用製品創製プロジェクト	ナノテック・材料	2003	2005	1,400	事前評価	適切	
66 経済産業省	デバイス用高機能化ナノガラスプロジェクト	ナノテック・材料	2003	2005	300	事前評価	留意事項あり	総合的な研究計画の下で、権限と責任を持つリーダーの下に各研究チームの連携を強化して推進すること。
67 文部科学省	新産業基盤「未踏光学(テラヘルツ光)」開発・創生プロジェクト	製造技術	2003	2007	1,500	事前評価	適切	
68 文部科学省	ものづくりトライアル・パーク	製造技術	2003	2007	3,000	事前評価	適切	
69 防衛庁	新架橋	社会基盤	2003	2005	3,228	事前評価	適切	
70 防衛庁	超音速空対艦誘導弾用推進装置の研究	社会基盤	2003	2009	1,231	事前評価	適切	
71 防衛庁	将来装輪戦車両	社会基盤	2003	2008	1,432	事前評価	適切	
72 防衛庁	戦闘機搭載用IRST装置	社会基盤	2003	2008	4,326	事前評価	適切	
73 防衛庁	滞空型無人機要素技術の研究	社会基盤	2003	2007	274	事前評価	適切	
74 防衛庁	弾道シミュレーション技術の研究	社会基盤	2003	2010	971	事前評価	適切	
75 防衛庁	先進装具システム技術の研究	社会基盤	2003	2009	587	事前評価	適切	
76 防衛庁	多目的電波妨害技術の研究	社会基盤	2003	2010	333	事前評価	適切	
77 防衛庁	地上誘導方式の研究	社会基盤	2003	2007	1,568	事前評価	適切	

府省で実施された評価方法及び結果の調査・検討：新規課題

府省名	研究開発課題名	分野	実施期間		事業費 H15年度 概算要求額 (百万円)	評価形態	総合判定	
			開始年 度	終了年 度(予 定)			判定	コメント
78 文部科学省	高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト	社会基盤	2003	2007	1,000	事前評価	適切	
79 文部科学省	東南海・南海地震に関する調査研究	社会基盤	2003	2007	473	事前評価	適切	
80 経済産業省	環境適応型高性能小型航空機プロジェクト	社会基盤	2003	2007	1,200	事前評価	留意事項あり	次回の評価では、実用化の観点及び効率性の観点並びに経済活性化への波及効果を十分検討すること。
81 文部科学省	準天頂衛星による移動体ブロードバンド通信・放送・測位環境創出	フロンティア	2003	2008	5,501	事前評価	評価中	大規模新規課題として評価中。
82 農林水産省	海洋生物資源の変動要因の解明と高精度変動予測技術の開発	フロンティア	2000	2006	278	事前評価	留意事項あり	課題の達成に向け、段階的な到達目標を明確化させて推進すること。
83 国土交通省	準天頂衛星による高精度測位補正に関する技術開発	フロンティア	2003	2008	1,655	事前評価	評価中	大規模新規課題として評価中。
84 国土交通省	準天頂衛星測位・通信システムの開発	フロンティア	2003	2007	567	事前評価	評価中	大規模新規課題として評価中。
85 農林水産省	新鮮でおいしい「ブランド・ニッポン」農産物提供のための総合研究	その他	2003	2005	3,922	事前評価	留意事項あり	次回の評価では、効率性の観点から十分評価することが必要である。
86 農林水産省	牛海綿状脳症(BSE)及び人獣共通感染症の制圧のための技術開発	その他	2003	2007	2,949	事前評価	適切	